

教育目標	「学園は、教える者と教えられる者とが、相互の信頼によって相互に生かされる精神的な共同体」という理念の下、知・徳・体を錬成し、調和ある人間像を確立する。						
経営方針	「自律的な精神」、「思考力と創造的な知性と技量」「自然愛や人間愛を大切にする豊かな情操」を培う。 また、日本人としての美德を育て、実践的な社会性を養うとともに、国際化・情報化社会のフロントランナーとして、社会貢献できるフェアなリーダーとしての資質を培う。						
重点目標	Ⅰ 学習指導の充実 Ⅱ 進路指導の充実 Ⅲ 心豊かでさわやかな生徒の育成 Ⅳ 広報・渉外活動の充実 Ⅴ 教育施設・設備の活用						
項目	令和5年度具体的な方策または評価項目を評価する 具体的な指標 ※【 】は数値的目標	令和4年度実施結果(成果は○、改善すべき事項は◇) ※丸数字は左欄丸数字の項目に対応	中学校自己評価			中学校関係者評価	
			評価	教員コメント (72名)		評価	学校関係者評価委員コメント (8名)
Ⅰ 学習指導の充実	授業改善への取り組み ①生徒の意欲が高まるような分かる授業を実践するとともに授業改善に努め、授業アンケートの結果向上を図る 【生徒の授業満足度(満足+どちらかといえば満足の比率)95%】 【授業満足度調査(生徒)を年2回実施】 ②各科、各クラス間、各教員間の指導の格差を改善し、指導を共通化する ③定期テスト後に教科会議を開催し、学力定着度の検証及び教科指導の改善を行う ④各教科でテーマを設定した研究授業を行い、授業力の向上に努める。	①○授業満足度調査を2回実施し、【生徒の授業満足度(満足+どちらかといえば満足の比率)】は93.5%と、目標に近い数値となった。授業満足度調査の結果の教員へのフィードバックも実施された。 ②◇各科、各クラス間や教員間の指導の格差がまだまだ大きいため、更に改善が必要である。 ③○教科会議を毎週行える状況(時間割)があり、指導の改善のための教科会議が実施されている。 ④◇研究授業が充分には実施されなかった。	A30%	・変化する生徒の状態を考慮し、より丁寧に、しかし、スピード感を失わない授業を工夫している。 ・生徒が受け身になる授業はもう時代遅れなので、主体的に考えさせ、授業で扱ったトピックについて議論できるような授業づくりを心掛けた。 ・授業の質自体は悪くない。 ・積極的にコミュニケーションをとり、授業内でのやり取りを増やすことができた。		A12.5%	・教員の負担とならず(ならないよな)、人材育成の向上を図る施策が必要である。 ・指導が必要な教員に対して同じ数の指導する教員を選出。教員の評価項目を選定し、達成レベルに応じたOJTを行う仕組みを作る。 【B62.5%】 ・指導教員には給与やキャリアパスにつながるような人事制度を設ける。 ・授業外の取り組みなど多方面で生徒へのフォローアップがなされている。 C0% ・進捗度について、特に高3時にまだ教科書の全内容が消化されていないことで不安を持っている生徒がいるため、バランス配分等の検討をお願いしたい。 D25.0% ・授業1コマ45～50分は適正か？ ・授業満足度調査を有効に活用し、授業改善につなげているところもあるが、まだ不十分である。各教科の担当教員で格差がないように努めていただきたい。また、そのような仕組みづくりが必要である。 ・多忙な業務の中ではあるが、職場全体で若手を支え、育成を。 ・各教科でどのような授業が行われているかわからない。 ・学校の教科、授業については子どもには教えてもらえない。親(保護者)のも分かるようにしていただけるとありがたい。 ・授業改善への取り組みが積極的に実施されていると伺える。 ・各教員間の指導格差の改善にも努められているようである。 ・世間では働き方が進む一方、学校教育の面では遅れが目立つように思う。多忙すぎて授業が二の次になってしまっは困る。 教育と事務方との役割分担等、教育に集中できる環境づくりをお願いしたい。
			C10% D1%	・授業での学びを日常に昇華できるように、多くの具体例を挙げることを心がけた。 ・教科の教員間でベクトルを合わせるための綿密なコミュニケーションがとれている。 ・感染症等で仕方ないところではあるものの、授業の自習時間が本校は多いと思う。日程や時間割、行事にも一因があると思う。再考されたい。 ・満足度調査、研究授業等で、授業力の向上を狙っているが、多忙すぎて授業が二の次になってしまう先生がいる。 ・デジタルコンテンツの利用が進まない。 ・教員の知識不足、授業準備に対する認識がいまだに甘いように思う。専門書を繙き、知識を吸収すべきである。 ・生徒に飽きさせないような授業をつくるための資料作成に取り組めたが、結果不十分であった。 ・授業改善・授業研究するシステムを構築したい。 ・先進校の取り組みを積極的に学べる学校体制を構築し、学ぶ意欲、姿勢を醸成したい。 ・教員個々に任されている部分が多く、教科を挙げて若手教員の技能向上が図られているとは言い難い。 ・若手教員の授業力向上に向けて各教科指導役をつけ評価し、運営委員に提出するシステムを作るべきである。 ・服装や予習などまだまだな教員が多い。 ・教科ごとにはあるだろうが、これといった統一的な施策があるわけではないし、全教員が研修活動に参画できていない。			

	学力の定着と向上に向けたきめ細やかな指導	①放課後プロジェクトや「9時まで学習」の一層の活性化を図る 【9時まで学習参加率 65%以上目標】 ②予習、復習、宿題の提出・点検指導等の徹底を図る ③英語検定指導等を継続して組織的に行う 【英検 2 級 300 名以上、準 1 級 20 名以上】 ④学力の基礎である国語力(文章読解や表現力)の向上のための取り組みを行う 【論理エンジンの有効活用・指導】 ⑤国際教養教育を推進する ⑥普通科生徒の学力・学習意識向上のための指導を実施する ⑦大学入試に対応した問題を定期テストに導入する ⑧家庭学習を充実させるため、オンデマンド教材の配信が実施できるように環境を整備し、配信を実施して学力の定着と向上に努める。 ⑨ICT を利用したオンライン授業が実施できるように環境を整備し、休校時等のオンライン授業実施に備える。	①◇図書室における放課後プロジェクトの参加は前年並みであった。 ○例年以上に職員室及び職員室前フロアで、積極的に個別指導を受ける生徒は増加した。 ○「9時まで学習」の参加率は、64%で前年度の 69%よりやや減少したが、国語・数学・英語における特別補講の参加者は盛んであった。 ②○各教科・各学年において、細かな指導が実践された。また『明誠ダイアリー』を利用した学習習慣確立のための指導が各クラスで実施された。 ③○【英検 2 級取得者数 287 名、準 1 級取得者数 19 名】英検 2 級取得者数が増加しており、英語の学力が全体に底上げされている。 ④○論理エンジンによる指導が実施されているが、引き続き国語力向上に努めたい。 ⑤◇ドリーム・ゲイトウェイ・プログラムは実施されたが、感染症予防措置の継続により国外からの教育訪問団との交流は実施されず、グローバルな視点の涵養が充分にはなされなかった。 ⑥◇各学年、各教科毎に対応を行っているが、統一した計画による実施には至らなかった。 ⑦○各教科において、大学入試共通テストに向けて定期テスト等の工夫を行っている。 ⑧○スタディーサプリを全生徒が使用できる状態になり、高校では到達度テストによるフィードバックも行われた。 ⑨○Wi-fi 環境及びプロジェクターの全教室設置が行われ、授業時に活用された。 ◇学級閉鎖時等に中学ではオンライン授業配信を行うことができたが、高校では実施に至らなかった。	A 30 % B 59 % C 8 % D 3 %	・放課後プロジェクト、9時まで学習の時間を活用した課外授業もコンスタントに実施できた。 ・小テストやノート添削等を全体的に行っていると思う。 ・朝学習に国語を取り入れ、不断に学習する姿勢を整えている。 ・教師の熱量次第であるが、おおむね基礎学力の向上に向けた指導ができています。 ・担当教科の先生によっては、個別の補習や課題での対応をしている。 ・普通科で十分に授業が実施されていないクラスまたは教科がある。学校全体の問題としてとらえ、TT などで改善することが望ましい。 ・基本的には担当教員の自助努力でなされているところが多分にある、教科全体での取り組み状況が可視化できていない。 ・授業中の振り返りが十分に取れず、学力の現状を把握することができなかった。	A 0 % B 87.5 % C 0 % D 12.5 %	・学力の定着と向上に向けた指導目標が明確だと思う。 ・学校（学年・学級）閉鎖時の中高での対応の違いとは？ ・担当教員の自助努力でなされているところが多分にあるが、良いシステム作りができるといいと思う。 ・英検を学校で受検できること、2 級取得者が増加している。皆も取得しようと思える環境がとても良い。 ・明誠ダイアリーが利用できていない。 ・ICT を利用した授業がいつでもできるように整備が必要である。 ・生徒が参加したい、する価値があると思えるような 9時まで学習となっているか疑問である。先生方の負担も大きいと思うだけに、よりよい内容になれば参加率も自然と上がるのではないかと思います。 ・9時まで学習による課外時間の有効活用ができる点は非常にありがたい。 ・特別補講に関する教員の皆さんの力添えに感謝したい。 ・国際教養（コース）の推進にあたり、バカロレア認定を取得する予定はあるか？ ・理科や社会の学力別のフォロー体制がとれるとありがたい（数学の α、β、γ のような形で）。
Ⅱ 進路指導の充実	進路希望の達成に向けたきめ細かな指導	①進路講話や個別面談、総合的な学習等(キャリア教育の推進を含む)により目標設定と進路意識の早期確立を図る ②教員の教科・進路指導の力量向上を図る ③教科検討会で模擬試験結果の検討を行い、生徒各個人に対応した指導を行う ④生徒の満足度の高い進路指導を行い、大学への現役合格達成を図る 【現役合格 95%】	①○高校 1 年生の進路ガイダンスでは本年度は河合塾「R キャンプ」を使い、文理選択研究の一助とした。後期は外部講師による大学選びについて講演を行い進路意識の高揚に役立てた。 ○高校 3 年生対象の大学説明、高校 2 年生対象の学部・学科説明、生徒たちが熱心に説明を聞き、進路目標の設定・進路意識の高揚に大きな意義があった。 ○高校 2 年生で活用した『志望理由書・マスターノート』は、新入試に対応する教材として今後も活用したい。 ②○駿台の夏季研修に、26 名の先生方が参加され指針の指導力向上に取り組まれた。 ③◇外部模試後の分析・検証の機会が持てなかった。 ④○四大志望者の大学現役合格率は 96.8%で目標の 95%を上回った。また浪人も 12 名(在籍数の 3.6%)で「現役主義の明誠」の目標に近いものとなった。	A 49 % B 38 % C 10 % D 3 %	・学校推薦型選抜をポイントに志望理由書や小論文指導が行われている。 ・進路課と各学年のコンセンサスがなされ、現状でよいのではないのでしょうか。 ・面談や進路希望調査など行われている。 ・総合学習を利用し、全体指導を、部活動による欠席者に対しても、漏れのないような指導を心がけている。 ・大学進学のため、2 年生の後期から始め、3 年生の 4 月からは進路先を明確にし、受験指導を行った。 ・データの活用が積極的にされるようになってきている。 ・生徒のしたいこと、考えていることを把握し、それを適切に表現させることに留意した。 ・進路指導は各教員で十分に実施されているが教員個人の力量に頼っていることも多いので、ノウハウの共有などを通してチームとして実施されると尚良いと考える。 ・外部の講師を呼んで指導たり、文理説明会を開いたりしたが、生徒が試合でいなかったり、体育館が暑くて集中できなかったりと、十分な効果があったかどうか。完全な形が必要である。	A 50.0 % B 50.0 % C 0 % D 0 %	・大学合格の決め手は進路指導にあると思う。民間の進学塾や外部講師による講演等の取り組みは評価できる。また、駿台での先生方の指導力向上への取り組みも評価できる。更なる指導者の質の向上をお願いしたい。 ・高校 2 年生のうちに大学の学部・学科を知り、自分の進路を考えられることはよいと思う。 ・夏休みの面談で詳しく進路指導をしていただいた。 ・ガイダンスや外部講師など、進路選択について考える様々な機会があり、生徒の意識向上にとってもよいきっかけになっている。 ・進路指導や面談も担任次第すぎる。他にも進路指導担当の先生や他の（それ以外の）先生方にも関わっていただける機会があるとよいと思う。 ・様々な手段を用いて、個々の進路や適性を醸成する機会は他校に比べ、充実している。

					・各クラスの方向性に対する学校の方針がない（あるが伝わっていないから）から、1年生の文理選択の指導も生徒に理解されていなく、2、3年生における進路指導の方向性も担任次第である。まずは教員にしっかりと、どういう学校・クラスなのかを指導すること（各教員の考えではなく、共通の考えを持つようにすること）が必要である。 ・本人の希望通りの進路実現ができていないかは疑問である。		・さらに外部からの情報を共有できるような体制維持を期待したい。
	難関大学等の合格に向けた指導	①国公立大学及び難関・中堅私立大学に合格できるような学習・進路指導を推進する ・国公立大学の総合型・学校推薦型選抜にも積極的に挑戦する（学研小論文講座の活用） 【第3学年 進路目標】 東大・京大・国公立大医学部→複数合格 旧帝大→12名以上 国公立大→80名以上 (静岡大・静岡県立大・静岡文芸大→40名以上) 早・慶・上→10名以上、 GMARCH・東京理科・関関同立→80名以上) ②旧帝プロジェクト（上位層の強化） ③共通テスト対策講座 ※②、③共に「9時まで学習」の時間を活用 ④医進プロジェクトで国公私立大医・薬等の指導強化	①◇2023 年度入試の国公立大学合格数は、総合型選抜・学校推薦型選抜 22 名(昨年 13 名)、前期 52 名(昨年 36 名)、中後期 18 名(昨年 11 名)で計 92 名(昨年 60 名)であった。在籍数に対する国公立合格者の割合も 28%となり、23 期生以来最も高い割合となった。国公立医学部合格 2、そして地元の静岡大合格 14、静岡県立大合格 17 の複数合格はここ数年では最大の数となった。難関私大は、早稲田大 2 名、東京理科大 3 名、明治大 4 名、青山学院大 4 名、立教大 5 名、中央大 13 名、法政大 7 名、関西大 2 名、関西学院大 5 名、同志社大 3 名、立命館大 14 名、計 63 名(昨年 39 名)であった。 ②○○最難関大学に挑戦する学力トップ層への指導は、旧帝プロジェクトで行ったが、ノウハウを継承するためにも、中堅・若手職員も参加しチームでの受験指導体制を構築すべきである。 ③○各教科とも放課後の個別指導には積極的に取り組んで頂けた。また「9時まで学習」を利用して、国語・数学で定期的に共通テスト対策を意識した講座を実施して頂いた。 ④○国公立立合わせ医学科合格 6 名、薬学 10 名、歯学科 4 名であった。	A 42 % B 38 % C 13 % D 7 %	・各種プロジェクトを進路課主導で実施しているのはその表れだと思う。 ・外部検定試験、模試等を積極的に利用し、高い目標に対する課題をこなしている。 ・各教科の指導、面接指導、小論文指導など全体で進められている。 ・最終的には各担任とか、教科担当者の献身的な指導と努力に負うところがあるが、全体的にはなされているように思う。 ・授業等を通じて、全国の大学の魅力を発信できるように、機会を捉えて映像を用いて説明をしている。 ・旧帝プロジェクトを定番化していく向きがある。教員のスキルアップを含め継続したい。 ・進学指導の経験者を中心としたプロジェクトチームを編成して、学年横断の指導体制を整えることが必要です。 ・一部の教員に頼っている感があるので、全員で取り組めるような工夫が必要である。 ・ベテラン教員の経験に基づいたノウハウを共有する機会が少ない。様々な取り組みを行っているが、どのような効果があったのか周知してほしい。	A 62. 5 % B 37. 5 % C 0 % D 0 %	・私学である以上難関校の実績は重要視されるべきである。意志ある生徒には積極的に挑戦できる環境を整えていってほしい。 ・入試方法も近年大幅に変化している。国公立大の総合選抜型ほか、多角的に生徒が希望する大学へ進学できるための情報開示をお願いしたい。 ・先生方の熱心なご指導のおかげだと思う。 一部の教員に頼るだけでなく、仕組みを作って（教員）全体に繋げられる（広げられる）ようになるとよい。 ・たくさんの生徒が難関大学を目ざしていて、（その生徒たちを）合格へと導くことができている素晴らしいと思う。 ・教職員の A 評価はすばらしいと思う。 ・最終的には（教員の）献身的な指導と努力（のおかげ）だが、一部の教員に頼っている（感）がある。 ・進路指導の専門教員の育成あるいは（他校からの）引き抜きが必要である。
目 心豊かでさわやかな生徒の育成	社会性や道徳心の育成	①礼節を重視し、様々な場面でマナーや社会的規範意識を育成する。 正門での礼や予鈴黙想の励行、HR での朝終礼時の指導・国旗、校旗の掲揚指導・校長講話等。 ②校内外の美化や教室等の整理整頓に対する指導 ③交通ルール、マナーの指導を通し、危険察知と思いやりの心を育み交通事故防止を図る。 【「命のメッセージ展」実施 5／8～5／19 の 2 週間】 【交通事故 10 件以内】 ④徳育を強化し、思いやりの心を育成するとともに問題行動の発生を防止する ⑤生徒の観察、生徒面談、いじめアンケート等を活用して、いじめ防止に取り組む。 【いじめアンケート年 3 回実施、 学校生活アンケート年 3 回実施】 ⑥スマートフォンの使用法など SNS についての啓発を行い、問題発生を防止する 【「スマホ安全安心講座」実施・「スマホの 17 の約束」配布と家庭での約束作り（地区会）】	①○礼節指導を継続して指導した。挨拶等は良好である。 ◇校外での社会道徳や 一般常識の一層の向上が必要である。 ②教室の整理整頓は HR により差はあるが、担任の指導により生徒の意識向上が見られる。 ③○サッカー部、陸上部、野球部等の清掃活動により、校内や学校周辺の清掃・除草等環境美化に貢献した。 ○トイレ清掃・教室内整理整頓・水回りの清掃指導を実施した。 ④○職員による登校時の街頭交通指導により交通安全意識の向上も見られた。生徒課による下校時の街頭指導の実施。 ◇交通マナーについて、地域住民から苦情が時折寄せられた。主に一時停止不履行・併進等、先生方の指導が浸透しない生徒もあり、繰り返しの指導が必要である。 ・教育講演「命の大切さを学ぶ教室」の実施 ◇交通事故は令和 3 年度 9 件、4 年度は 15 件に増加。ほとんどが軽微な事故であるが、重大事故に繋がらないように日常の指導継続。自転車施錠点検を実施。施錠車率は向上したが、継続指導が必要。 ⑤◇問題行動・3 件 4 名 校長指導 2 件 2 名・教頭指導 1 件 2 名	A 25 % B 59 % C 15 % D 1 %	・あいさつをする生徒が多くなったように思う。 ・生徒はおおむね落ち着いた生活態度である。 ・日常生活の中で、とても気持ちの良い挨拶ができる生徒が多いと感じています。 ・学校行事等熱心に取り組んでいる。 ・始業時の挨拶の返事など、クラスによって差があるので、担任等と連携をとって指導していきたい。 ・清掃活動については、服装や清掃に取り組む姿勢など、改善すべき点があると思います。まじめに清掃に取り組まず、話をしていたりする生徒もいるため、しっかりと指導していく必要があると感じています。 ・時代に合わせて学校行事や校則の見直しを進めるべきだと思う。 各高校の評判が書かれたサイトなどを見ると、校則等の点について本校は評価が低い。生徒の声を鵜呑みにするだけではないけないうが、非合理的な校則や行事を改正する考えは持つべきだと思う。 ・女子だけに行う乙女塾・礼法や、男子だけに行う武道など、「男はこうあるべき」「女はこうあるべき」という価値観に基づいた行事がある。	A 25. 0 % B 75. 0 % C 0 % D 0 %	・「明誠生」という目で地域の人は評価している。校内外における一挙手一投足を見られている意識やすすんで慈善的な行動が起こせる基礎作りを引き続きお願いしたい。また、これらの模範となる生徒への評価をお願いしたい。 ・ジェンダーレスは社会（で）一般的な（こと）なので、学校でも行事、制服でも取り入れられるべきである。 ・あいさつ、清掃、礼儀などの道徳的な指導にもより力を入れる必要がある。 ・清掃については、自分たちが生活する場所は自分たちできれいにするのが当然だと思って、取り組めるといいのだが。 ・他校と比べても、あいさつをしてくれる生徒が多い。 ・生活態度が落ち着いていて、良いと思う。 ・非合理的な校則とは？ ・中学校評価に比べ、高校生の挨拶ができていることに安心した。

		⑦教員の生徒指導力、クラス経営力向上のための研修（救急救命法、生徒指導、スマホ安全安心講座）の研修を実施する	○各学年とも個々の生徒指導は当然あるが、全体的には落ちていた学校生活を送っていた。 ⑥○いじめアンケート年3回。学校生活アンケート年3回の実施。いじめに関する調査、学校生活アンケートは、いじめの防止、友人関係の改善や生徒指導に活用した。 【ネット依存防止プログラムによる職員生徒指導研修会】 ネット依存・依存傾向解析テスト結果と個表の読み取り・「宣誓書、報告書」について・個人相談「オンラインゲームから抜けたい・グループトークでのトラブル等」 ・スマホ等の校内持ち込み許可による大きな弊害は特になく、多くの生徒はルールを守っているが、校内での無断使用・登下校中のルール違反等の生徒も見られるため、日々の指導を継続する。 【救急救命法の実施による緊急時の対応】		こういった価値観を苦手とする生徒やLGBTQの生徒などは、こういった行事によって本校に対して悪い印象を持ってしまうと思う。そのため、こういった行事の見直しが必要だと思う。 ・時代に合わせる形になったのか、以前に比べ、厳しい指導は見られなくなった半面、ダメなことをダメと言い切る雰囲気をあまり感じない。 ・自らの生活を見直し、切り拓く生徒を育成するための策を講じた。 ・クラスによって挨拶ができない、地べたに座り込むなど一般的な常識を知らない生徒が増えたと感じている。 ・クラス担任が責任を持って行動を習慣化させる粘り強さを備えなければならぬ。 ・部活などの生徒は、部活内では左記の活動は行われているが、身についているとは言えない。 ・スマホを貴重品BOXに預けてない生徒が複数名いるクラスがあるため、明誠でのスマホのルールを再度教員、生徒ともに認識した方がいい。 ・他学年からみると可視化できる項目がすくないのではないのでしょうか。		
	基本的生活習慣の確立	①欠席や遅刻等の減少を図る。 ②正しい身だしなみの指導を徹底する 学年全体校風指導年6回実施 ③制服等の着用指導を徹底する ④基本的生活習慣の指導を職員の共通理解のもとに実施する ⑤校則の遵守 ⑥感染症等対策の実施・健康管理指導 手洗い、うがい・手指アルコール消毒・教室の換気等の習慣化を図る 保健室便りの発行。毎月1回さくらメールを利用	○学年校風指導を学年団の意思統一のもとで6回実施。服装面で大きな乱れもない。 ○基本的生活態度はある程度確立されていた。 ・制服の着用状況は良好である。 ・体育、清掃・作業時以外のジャージ着用は見られない。 ・遅刻等の減少には至らなかった。 ◇登下校時の服装、早朝時の自転車走行注意 ・「併進、右側走行、一時停止」について指導。 ・早朝時の登校服装注意。 ○生徒は校則をおおむね遵守していた。 ・スマホ等のルールに関しては日常の継続指導が必要であり、慣れからルーズにならないよう注意。 ○各クラスに手指消毒薬の導入と教室の換気等を徹底させた。 ・マスクの着用は習慣化された。（状況により着脱する）	A 25 % B 67 % C 7 % D 1 %	・頭髪・服装は良好である。 ・清掃・挨拶・授業姿勢・交通マナーを柱として、整えていくように心がけている。 ・登校指導など、基本的生活習慣を後押しする仕組みができている。 ・クラスによって、スマホに関するルールの厳しさに差があることが少し気になります。 ・遅刻に関して、「遅刻しないようにする」対策と指導がなされていない。 ・日常的な挨拶であるとか、定期的な校風検査の実施等によって、身だしなみについては概ね良好であると思う。	A 12. 5% B 87. 5% C 0% D 0%	・（保護者としても）安心できる。 ・頭髪、服装がしっかりしていると、学校がしっかりしているように見える。 ・服装がきちんとしている生徒が多い。 ・身だしなみは全体的によい。先生方の日頃の生活指導あつてのことだと思う。 ・他校の生徒の自転車走行で危険なことがあった。指導してくださるのはありがたい。 ・欠席者や遅刻者が出る根本的な要因の解消ができていないように思う。 ・基本的に一般社会的なルールを鑑みた行動はできていると思う。 ・他校より厳しめという外部からの印象はあるが、社会通念的に問題はないと思う。
	部活動の充実	①学習と部活動の両立を一層推進しつつ、生活面での指導も強化することにより、心身を錬磨し、自律的な精神と協調性を養う 【部活動加入率 80%以上】 ②県大会や全国大会への出場及び各大会での上位進出を果たす 【県大会出場～全ての部、全国大会出場～4部】	①○多くの生徒が部活動に加入している。 ○部活動加入率約80% ○各部のテスト前の集団学習が活発であった。 ○各部とも積極的な活動が行われた。 ○大会・試合の結果のみならず、各部活動を通して人間形成にしっかりと取り組んでいる。 ②○チアリーディング部の全国大会1位、更にUSAフロリダで開催されたワールドスクールチャンピオンシップゲームデイ部門1位と世界大会での大活躍があった。バスケットボール部は全国高校総体3位、全国高校選手権大会3位と優秀な成績を残した。陸上競技部は1500m走でのインターハイ出場。東海地区駅伝大会2位、全国高校駅伝への出場等活躍した。射撃同好会の全国大会出場、またサッカー部は、県	A 59 % B 40 % C 1 % D 0 %	・部活動が学校を活気付けていると思う。 ・各部活動精力的に取り組んでいる。特にサッカー、野球、バスケット、陸上の頑張りや他の部活動に所属する生徒の励みになっている。 ・各部で実績が上がっている。 ・女子生徒の部活動が目立つようになった。 ・様々な取り組みを試しながらレベルを上げることができた。 ・学校生活の面でも向上が見られた。 ・部活によって全く異なるが、おおむねそのレベル・ニーズにあった指導ができています。 ・運動部については、部活動関係者による献身的な実践により、生徒各人の基本的生活習慣の確立も含めての実践ができています。	A 87. 5% B 12. 5% C 0% D 0%	・文武両道の教育方針の現れだと思う。 ・部活動が盛り上がりよくなると思う。 ・部活動で上位進出が多く見られるが、環境の悪い部活がある。チア部がいつも靴箱（の）で活動していたり、野球グラウンドの水はけが悪かったり。 ・運動部の活躍はすばらしい。 ・野球部、バスケットボール部など、大会でとても良い成績で、すばらしいと思う。 ・近年の各部活動の功績は大変すばらしい。 明誠ブランドに直結するので、後援会と連携して引き続き頑張っていたきたい。

			高校総体の準優勝とインターハイ出場まであと一歩であり、東海プリンスリーグでも好成績を残した。多くの部が県大会に出場する活躍を見せた。文化部では、MLAC が英語ディベートでの全国大会に出場。棋道部も県大会団体戦準優勝、個人戦 3 位の成績を残した。また、吹奏楽部もコンクール等での活躍があった。 ○【県大会出場：ほとんどの部、東海地区大会：5 部、全国大会出場：5 部】 ・部活動ではないが、馬術で国体出場、数学オリンピックで東海地区予選 A ランク入賞等個々の生徒の活躍も見られた。		・乙女塾は普通科の女子だけを対象にするのではなく、同好会にして男女関係なく参加したい人が参加できるようにした方がよい。 ・一部教員で部活動に熱心でない者、顧問なのに部活動に参加しない者がいる。 ・文系の部活動の活発化を進めていきたい。 ・部活動が盛んに行われていることはとても良い。が、不要な（たいては活動もしていない名ばかり）同好会が多すぎると思う。同好会を創設する必要はないと思う。そもそも本校は、部活動加入は任意。やりたい部活動がないのであれば、外部でやればよいだけの話。中途半端に同好会が活動することで部活動の活動スペースが制限されるのはいかなものかと思う。 ・部活動によつての偏りがある。		・部活動内での倫理（いじめや体罰）などコンプライアンスを遵守していることを、もっと対外的にアピールするのもよいと思う。
広報・渉外活動の充実	効果的な広報活動による学校理解の促進	①広報誌の発行、報道機関への周知等様々な手段を通して、本校教育に対する保護者や地域社会の理解を深める。 ②ホームページ(HP)の更新を積極的に行い、効果的な情報発信を行う。 【年間アクセス数 600,000 アクセス】 ③学校説明会参加者を増やす情報を提供する。 ④本校理解がより深まり、募集に効果的な内容にするために、広報誌等の見直しを行う。 ⑤地域の自治会等への情報提供や学校行事への招待等を積極的に行い、学校理解の促進と広報の推進を図る。	①○「明誠ニュース」「進路だより」保護者会広報誌「初心」など予定通り発行した。 ○部活動・同好会の様子を紹介し、中学生の多様性に対応できるように努めた。 ○保護者会地区会が出された質問や要望への回答を文書で配布した。 ②◇HP のアクセス数が減少した。HP の更新を積極的に行い、内容の工夫も行いたい。 ・2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日のアクセス数 543,024 ③○学校説明会への参加者数（1 日体験入学、直前相談会を除く）を増やすことができた。 ・H3・1,155 人 H4・1,305 人 150 人の増。 ④○見直しを行ったほか、新たに国際教養コースのリーフレットを発行、配布した。 ⑤○入学式、卒業式、文化祭、体育大会に自治会役員を招いた。	A 45% B 43% C 8% D 4%	・様々な方法で広報活動が行われている。 ・担当責任者等を中心に、成果が出ていると思う。 ・一日体験入学や学校訪問で一定の成功を収めていることができた。 ・学校案内などの刷新がされている。 ・ホームページの更新を各分掌で協力して積極的におこなうべきだと思う。 ・部活動を中心とした説明会が行われたが、効果があったのか疑問である。行うのであれば年度初めに計画に入れてほしい。 ・特に学校の HP 等を用いた内外への発信がさらに求められている。 ・今の時代、情報専属の人が良いと言うくらいの情報が必要で大切である。HR 担任以外を担当させ、高頻度で HP 更新すべきである。 ・説明会などその時期に応じた（必要な）活動は行われていない。	A 37.5% B 62.5% C 0% D 0%	・やはり SNS の有効活用が命題。これを多頻度かつ定期的にリリースすることがブランディングの礎になる。メディア担当の専門的人材あるいは生徒の力を借りるのも一つの手段だろう。 ・HP 等、活用不足である。より HP 等を上手に活用できれば、個々の先生方が行う広報活動の負担軽減にもつながると思う。 ・一日体験入学が魅力的なものになっているか疑問である。 ・HP の内容が薄い。もっと充実させた方がよい。 ・ホームページの活用を（もっと）した方がよいと思う。 ・HP は費用対効果を考え、専門的な人材の活用も。 ・よりよい広報活動のため、一層の努力をお願いしたい。
	積極的な渉外活動の実践	①小中学校への積極的な学校訪問等により募集の拡大を図る。併せて、入学者の増加に有効な方策を具体的かつ速やかに実施する ②焼津・藤枝・島田・榛原・小笠・袋井の小中学校を対象とし、組織的に募集活動を展開する。 ③学習塾への訪問を行い、募集の拡大を図る ④県外募集の充実を図り、有為な生徒の確保に努め、入試内容・方法について見直す。 ⑤「一日体験入学」「入試直前相談会」の充実、取り組みの強化を図る。 【学則定員の確保】	①○年間の生徒・保護者の総動員数は 4,227 人となり、昨年度より 84 人減少した。 ②○志太・榛原・小笠・袋井地区への中学校訪問を職員で分担し、3 年主任や進路指導主事と直接面談して募集拡大を図った。また、静岡地区では重点校を絞り募集活動を行った。さらに、学習塾への訪問を積極的に行った。 ③○副校長が学習塾への訪問を積極的に行った。 ④◇福岡奨学生入試オープンでは、単願合格者はいなかった。 ・学習特待生の入学につながるような方策を検討する必要がある。 ・札幌奨学生入試は、受験者がなく、札幌一般入試は、受験者が 2 人であった。 ・1 日体験入学の参加者は 2,387 人で昨年度より 176 人減少した。 ・入試直前相談会の延べ参加者数は 540 人で昨年度より 62 人減少した。	A 52% B 32% C 10% D 6%	・協力的に行われている。 ・全職員で学校回りをしようとする雰囲気が素晴らしい。 ・学校説明会や部活動見学など新しい取り組みがある中で教員が賛同して渉外活動の手伝いをしている。 ・部活の体験会は好評だったと思う。 ・ホームページの活用が不十分。もっとリアルタイムな情報発信の必要性である。 ・本校 OB で、現役の公立の中学教員に向けて、広報活動をしているのが良いでしょう。 ・募集活動に変化がない。ルーティンをこなすだけの募集活動は教員のモチベーション低下や、生徒募集のマンネリ化を招くと思う。 ・SNS の活用、学校の HP の抜本的な見直し等、そこに学校予算を費やしてでも改革が不可欠である。	A 75.0% B 25.0% C 0% D 0%	・人的な活動は他方面で行われて、実績もある。 ・競合他校に比べて明誠の絶対的な特徴は何か？ ・先生方が忙しい中、渉外活動に時間を割いてくださっているが、それに SNS、HP の活用が伴っていないように思う。 ・入試直前相談会の個別相談で先生の助言でだいぶ変わるので、大事だと思う。 ・全教員での協力的な活動が素晴らしいと思う。

